

# 『平成27年度宇部市中学生ふるさと民泊学習推進事業』活動報告書

【中学生ふるさと民泊学習推進事業】

## 中学生ふるさと民泊学習推進における体験活動

山口県宇部市立上宇部中学校

### 学校の概要

#### ① 学校規模

- 学級数：18学級  
(内特別支援学級3学級)
- 生徒数：470人
- 教職員数：42人
- 活動の対象学年：2年生141人

#### ② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 宇部市上宇部地区のほぼ中央に位置している。
- 商業地帯及び住宅地帯が入りまじり、活力のある地域である。
- 感動－One for all All for one－のスローガンのもと、生徒、教師、保護者、地域社会の方々すべての人が、お互い支え合い、認め合って感動を分かち合える取り組みを積極的に行っている。

#### ③ 連絡先

- 〒755-0085  
山口県宇部市沼二丁目4番地8号
- 電話：0836-31-1369
- FAX：0836-31-1352
- ホームページ  
<http://www3.ube-ygc.ed.jp/kuj/>
- 電子メール  
[kuj@ube-ygc.ed.jp](mailto:kuj@ube-ygc.ed.jp)

### 体験活動の概要

#### ① 活動のねらい

- 山口県長門市を訪ね、農業作業を実際に体験することで、自然を相手にして生活する人々の文化を知り、将来の進路選択の一助とする。
- 共通体験を通して、ホストファミリーとの心の交流や友達同士の信頼関係を深めることで、人との関わりについて学習する。

#### ② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 事前の学習活動  
総合的な学習の時間6単位時間  
特別活動2単位時間  
道徳1単位時間
- 民泊体験活動  
総合的な学習の時間18単位時間  
山口県長門市俵山地区  
(NPO法人 ゆうゆうグリーン俵山)
- 事後の学習活動  
総合的な学習の時間2単位時間  
特別活動1単位時間

## 1 活動に関する学校の全体計画

### ○ 活動のねらい

- ・ 山口県長門市を訪ね、農業作業を実際に体験することで、自然を相手にして生活する人々の文化を知り、将来の進路選択の一助とする。
- ・ 共通体験を通して、ホストファミリーとの心の交流や友達同士の信頼関係を深めることで、人との関わりについて学習する。

### ○ 全体の指導計画

- ・ 実施学年 中学2年生

期間	活動の名称（○内容）	教育課程上の位置付け	単位時間数
4月中旬～ 5月20日	事前の学習活動 ○ 宿泊体験学習の目的・活動内容 ○ 班編成、バス座席決め ○ 宿泊体験学習のきまり ○ 集団行動 ○ 俵山についての調べ学習 ○ 金子みすゞの詩に関わる学習 ○ 人との関わりについての学習 ○ 自己紹介シートの作成 ○ 事前アンケート ○ しおりの記入、活動計画	総合的な学習の時間 特別活動 道徳	6 2 1
5月21日～ 5月23日	民泊体験活動 ○ 農村での生活体験・農業体験 ○ 俵山地区での自然体験 ○ 俵山伝統子ども歌舞伎の鑑賞 ○ 公衆浴場の体験 ○ 能満寺住職の話 ○ 山登りと八十八カ所めぐり	総合的な学習の時間	18
5月下旬	事後の学習活動 ○ 体験の振り返り ○ 礼状作成 ○ 民泊体験新聞の作成	総合的な学習の時間 特別活動	3

## 2 活動の実際

### ○ 事前指導

#### ・ 実行委員会

各クラス2人（合計10人）選出し、委員長・副委員長、スローガン、式のあいさつの役割分担について話し合った。式の中には、事前指導・出発式・入村式・対面式・退村式・解散式があり、生徒が主体となって行えるようにNPO法人と連絡を取り合いながら準備をすすめた。

#### ・ 事前指導

集団行動の指導として、式での並び方、活動隊形、バスの乗車方法の確認、あいさつや礼法の練習を行った。女子の事前指導では、民泊先でのトイレやお風呂使用のマナーについて確認した。

#### ・ 事前学習

俵山についての調べ学習では、観光ガイドの情報をもとに俵山を紹介するパンフレットを作成した（図1）。金子みすゞの詩を読み、好きな詩にイラストをつけて作品を作成した。道徳では、家族について学習し、深い愛情によって育てられたことに感謝の気持ちをもつことを考えさせた。民泊先の方は家族の一員として愛情をもって受け入れてくださることに感謝の気持ちを忘れないように話をした。民泊先への自己紹介シートの作成をし、事前に受け入れ家庭に送付した。

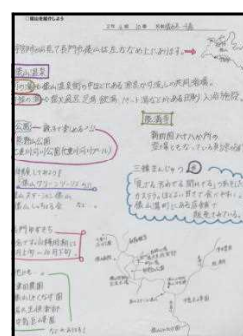
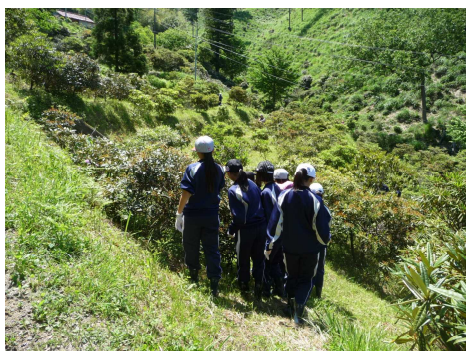


図1 紹介パンフレット

### ○ 活動の展開

#### ・ 活動の様子

##### シャクヤクの花柄摘み



##### 畝作りと大豆の種まき



##### 地区ごとの体験



##### 地区ごとの体験



1日目 5月21日(木)

8:00 学校集合(グラウンド)

8:15 出発式

8:30 出発準備 バスへ移動

9:00 学校出発

10:00 道の駅於福(休憩)

11:00 俵山 到着

11:10 入村式(俵山中学校体育館)

11:30 オリエンテーション

11:50 体験場所へ出発

12:30 昼食(弁当持参)

13:30 作業説明

14:00 体験

A班 シャクヤクの花柄摘み

B班 畝作りと大豆の種まき

16:00 集合・出発

16:50 到着

17:00 対面式(俵山中学校体育館)

民泊先での活動

2日目 5月22日(金)

6:00 起床・整理・洗面

8:00 8地区での  
民泊先別集団体験

12:00 昼食

13:00 8地区での  
民泊先別集団体験

17:00 民泊先迎え

3日目 5月23日(土)

6:00 起床・整理・洗面

8:00 体育館集合

9:00 能満寺住職のお話  
八十八カ所めぐり

12:00 昼食

13:00 長靴洗い

13:30 退村式(俵山中学校体育館)

14:30 出発準備

15:00 俵山発

17:00 解散式(交通局駐車場)

17:30 学校到着

○ 事後指導

- ・ 民泊先家庭への礼状

民泊受け入れ家庭にお礼の手紙を書いた。お世話になった方々への感謝の気持ちや自分が体験して学んだこと、成長したことなどをしっかり書いていた(図2)。

- ・ 民泊体験新聞の作成

民泊体験や体験活動で学んだことを振り返り、記事としてまとめた(図3、4)。さらに、個人の新聞を地区ごとにまとめ8地区での体験内容を大判用紙にまとめ掲示した。

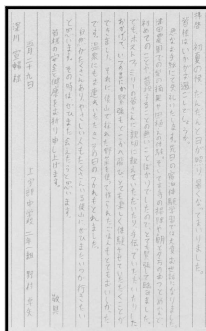


図2 お礼の手紙

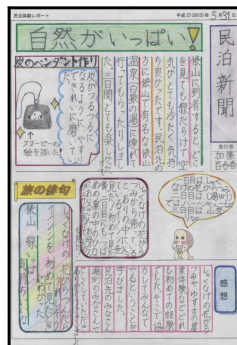


図3 民泊体験新聞

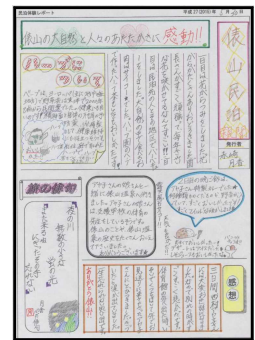


図4 民泊体験新聞

### 3 体験活動の実施体制

#### ○ 学校や受入地域の支援体制

- ・ 学校の体制・・・校長、教頭、教諭9人、養護教諭
- ・ 活動の場や指導者の確保等の手だてや工夫

入村式と退村式で、俵山中学校体育館を借りた。入村式では、俵山中学校長に依頼し、俵山中学校生徒会による伝統子ども歌舞伎のビデオと衣装を鑑賞した。

- ・ 体験活動推進協議会による支援

NPO法人ゆうゆうグリーン俵山から、次の①～⑤について支援や情報交換を行った。①民泊の行程や活動計画②配慮する生徒への対応（民泊先への連絡、協力依頼）③事前打ち合わせ（教員の宿泊場所や食事、移動に関すること）④医療機関の確保⑤夜間巡回の方法

#### ○ 配慮事項等

- ・ 保護者への説明

本校では例年、3年生の修学旅行で、九州において自然体験活動や民泊学習を実施してきた。この2年生が3年次の修学旅行では、これらの自然体験活動や民泊学習がプログラムに含まれていないことから、二年次に民泊学習を実施し、豊かな人間性や社会性を育む一助にしたいと考え、3月上旬に保護者に説明を行った。3月末には体験内容や費用についてお知らせをした。健康面で配慮する生徒については、NPO法人と保護者とも連絡を取りあい配慮に努めた。体験後には、学年保護者会で体験の新聞や写真やビデオ視聴による報告を行った。

- ・ 生徒への健康管理

事前調査では、NPO法人からの健康調査票を使い、食物、動物アレルギーや保護者が事前に民泊受け入れ家庭に伝えておきたい内容をNPO法人を通して受け入れ家庭に事前連絡を行った。実施の一週間前にも直前の健康調査を行った。健康調査票は学年でまとめ全員が対応できるよう情報を共有した。体調不良の生徒や配慮の必要な生徒については、夜間民泊先へNPO法人の案内のもと、教員が巡回した。

### 4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

#### ○ 体験活動の評価の工夫

宿泊体験学習のしおりに一日の振り返りをさせた。実施後、体験の感想や反省を作文や俳句で書かせた。体験内容を個人で新聞にまとめたり、お礼状をしっかりと書かせたりすることで各自の成長を記録させた。

#### ○ 指導の改善

- ・ キャリア教育の視点から就労体験と捉え、人と関わり合いながら農作業の手順を学び、実践する中で自信や達成感、充実感を体感できるよう指導した。
- ・ 体験内容が多岐にわたり地区も離れていたため、個人の体験新聞を地区ごとにまとめ直すことで互いの活動を知ったり、お世話になった地域の方々への感謝の気持ちをもてるよう指導した。

## 5 活動の成果と課題

- 1日目の農業体験として、「シャクヤクの花柄摘み」と「大豆の種まき」を各1時間程度取り組んだ。初日ということもあり、多少緊張気味ではあったが、地元の方からの説明や指導を受けながら真剣に取り組んでいた。特に、「大豆の種まき」では、鋤を使っての畝づくりを行ったが、生徒の感想によると、中山間地域で自然を相手に生活する人々の苦労や楽しみ等を生徒なりに感じていたようだった。昼のプログラム終了後、宿泊先のホストファミリーの方々の家に移動した。夕食をホストファミリーと一緒に食べたり、散歩やほたるを鑑賞したりするなどした。日常とは違った生活を送る中で、人との関わり合いを深めたり、自然を感じたりして有意義な時間を過ごすことができた。
- 2日目の研修プログラムは、薪割り、ピザづくり、田植え、トラクター体験、竹細工、竹炭アクセサリ作り、山菜摘み、川遊びなど、8つの地区に分かれての体験活動を行った。どのグループも、ホストファミリーの方との交流を深めたり、グループ内で協力したりする場面がたくさん見られた。生徒たちは、体験したことがない活動に戸惑いを感じる場面もあったが、和やかな雰囲気の中、積極的に取り組んでいた。地域が温泉地ということもあり、2泊3日の中で一人1回の公衆浴場体験があったが、マナーが悪く、一般の方へ迷惑をかけた。事前に公衆浴場でのマナーについて触れておく必要があった。
- 3日目の午前中は、能満寺の住職の命の大切さに関する話を聞いた後、地元の方のガイドを受けながら地域内の八十八ヶ所巡りをした。昼食は田んぼのあぜ道に座り、自然を感じながらの食事だった。
- このたびの研修プログラムは、ほとんどの生徒にとって初めての体験であった。生徒たちは、3日間の共通体験（農業体験や自然とのふれあい、ホストファミリーとの交流等）を通じて人との関わり方や自然の大切さ等、多くのことを学ぶことができた。この経験を通して感じたことを、学校生活等に生かすとともに、自分の将来を考える一助にしてほしいと願っている。
- 最終日は天候が心配されたが、屋外での活動には影響はなく、主な研修は予定通り実施することができた。俵山の職員には人間的な負担をかけたが、141人が農業作業を実際に体験することで、自然を相手にして生活する人々の文化を知り、将来の進路選択の一助とすることができた。
- 生徒の声では、2日目の体験中に、前日の受け入れ先家庭での様子を楽しそうに語っていた。「民泊先の方と散歩をしてきれいな夕日を見て感動した。」「民泊先の方と散歩をして蛍を見た、とてもきれいだった。」「たんぼのあぜ道で犬の散歩をして楽しかった。」「猟犬がいて、昨日は白い犬だったのに朝起きたら、赤くなっていて驚いた。昨夜、猟で鹿と戦って赤くなったんだよ。」「今日は鹿肉のバーベキューを食べるんだ。」「もっと俵山で過ごしたい。」日頃でも体験していそうなことだが、信頼できる大人が見守る中でゆっくりと過ごした体験が心に残った様子が伝わった。